

門司メディカルセンター 地域医療連携室だより



泌尿器科

～泌尿器科救急の現状について～

泌尿器科部長 赤坂 聡一郎

泌尿器科は3名（赤坂聡一郎、守屋良介、山崎豪介）で診療を行っております。

当科の特徴は、全員が泌尿器科専門医であること、休日・夜勤帯も当番制で急患対応を行っていること、結石治療に対し、体外衝撃波結石破碎術（ESWL）が可能であることです。

今回は、泌尿器科救急疾患（結石、感染症）の現状についてご紹介します。

【図①】に救急搬送・入院した泌尿器科疾患数を示します。3年間に救急搬送された方のうち、泌尿器科疾患で入院となったのは87名、2.4%でした。【図2】にその疾患を示します。尿路感染症関連が46名で約半数を占めています。【図3】で手術を要した症例を示します。救急搬送で入院した尿路感染症患者46名のうち16名、35%に手術を行っています。手術の内容は92%が尿管ステントまたは腎瘻でした。水腎症を伴う尿路感染症は、急激な経過をたどります。患者の20%が敗血症性ショックとなり、そのうちの10%がお亡くなりになるとされ、全体の死亡率は2%とされています。敗血症性ショックに移行する前に処置を行う必要があります。この水腎症を伴う尿路感染症の原因で、最も多いのが尿路結石です。外科的処置と抗菌薬投与で感染症をコントロールした後、尿路結石の治療が必要となります。当院では体外衝撃波結石破碎術（ESWL）、硬性尿管鏡を用いた経尿道的尿路碎石術（TUL）で対応しています。現在は、技術の向上により、尿管ファイバーを使い、レーザー碎石を行うflexible-TUL（f-TUL）が可能となっています。これにより、TULでは到達できなかった上部尿管や腎結石に対し、治療が可能となりました。当院でも間もなく導入予定です。



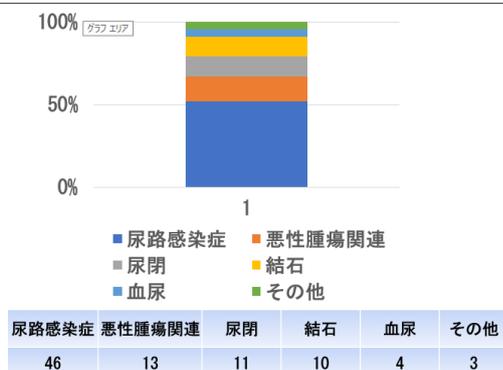
【図①】

救急搬送・入院した泌尿器科疾患数

	2021	2022	2023
救急搬送数	1032	1194	1376
泌尿器科入院数	32	73	43
うち泌尿器科疾患数	20 (1.9%)	33 (2.8%)	34 (2.5%)

【図②】

救急搬送・入院した泌尿器科疾患



【図③】

搬送・緊急手術を要した症例

尿路感染症	46	尿管ステント留置術	13
悪性腫瘍	13	腎瘻	2
尿閉	11	経尿道的止血術	2
結石	10	デブリードマン	1
血尿	4		
その他	3		

救急搬送・入院した尿路感染症患者の35%が緊急手術を要する

♥ 「患者サポートセンター」をご活用下さい ♥

入退院支援・患者サポートセンター 体制

(室長) 大西 英生

(課長) 村岡美紀子 (課長補佐) 三宅 仁史

(看護師長) 古賀さとみ

(地域医療連携室事務) 上田昌史 上田英理子 川野美穂 小山真純 本田美穂 片山康雄

(MSW) 桂川陽子 前原知香 大石夏喜

(入退院支援看護師) 野副可奈子 岡本紀美子 村枝絹代 柴崎直子



〒801-8502 北九州市門司区東港町3番1号
 TEL: 093-332-7616 (連携室直通)
 093-331-3461 (病院代表)
 FAX: 093-331-3466 (連携室専用)
 PHS: 093-332-1250 (連携室担当看護師)

